

SHINCLUB76

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450 URL:http://www.esna.co.jp



オーセンティックビル 全景撮影:間瀬憲隆/studio M(ミュー)

今月のトーク/monthly talk

受け継がれる建築への心

今月ご紹介する千駄ヶ谷の「オーセンティックビル」の敷地には、以前宮脇檀氏設計の建物が建っていました。宮脇氏は、1936年愛知県生まれ、特に住宅設計に手腕を発揮されました。コンクリートと木の架構を組み合わせたボックスシリーズで都市住宅に新たな提案を行い、1978年第31回建築学会作品賞を受賞されています。

著作も多数で、建築だけでなく、家とそれにまつわる日本人の暮らしなどを描いたエッセイにはファンも多く、一般の人たちに平易な表現で建築文化への理解を促しました。残念なことに1998年、咽頭ガンで、62歳という若さで亡くなりました。

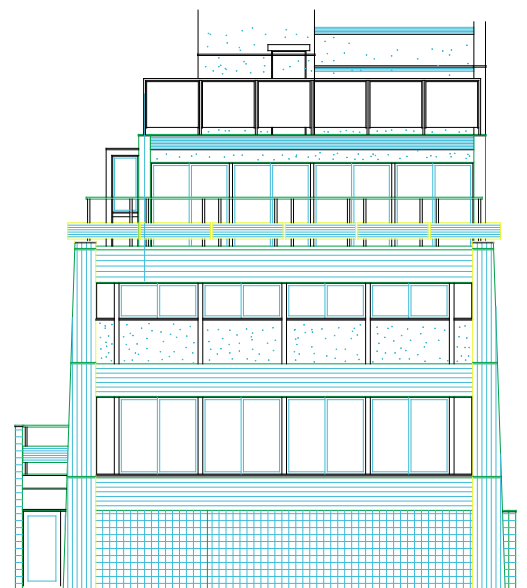
しかし、その著作物は色あせず、先ごろ建築専門雑誌でも特集が組まれていました。時代を見つめる目の確かさは、現在日本が抱えるさまざまな問題の解決への糸口を示唆しています。

著作物では、日本の家族が失った大切なものを指摘し、それらは、戦後、男たちが会社で1日の大半を過ごし、その結果、育児・教育と家づくりから逃げてしまったことが原因となっているとしています。ご本人は、新婚時代共働きをしている頃から夫婦で家事をシェアし、離婚してからも、仕事前に料理・洗濯をこなし、男手1つで娘さんを育てあげています。家事についての自信の程が伺えます。そんな宮脇氏が、病を知って自分の仕事をまとめようという決意を述べていることに胸をうたれます。

オーセンティックビルの設計者石川俣氏は、若い頃、宮脇檀氏の作品や著作にはずいぶん勉強させてもらった、と言います。

リフォームでも新築工事でも、以前の建物を前にして、新しく建築を行なう設計者や施工者、それに関わる人間は、良い建物であればあるほどその設計意図を理解し、その心を大切に受け継ぎたいと感じるのではないのでしょうか。

多くの人が街の建築物を愛する心、批評する目を育てられる社会にしていきたいものです。



※以前、オーセンティックビルの現場に建っていた、宮脇檀氏設計のビルの立面図。現地調査により、石川俣設計工房で立面図を作成したものです。



①南側外観 夜景



②1階ショウウィンドーを外から臨む。建物のコーナーのシャラやウインドウ前に植えられているアイビーなどの植栽が柔らかな表情を与える。



③川上吉彦社長。1階打ち合わせスペースにて。取材当日も、お客様がお祝いに訪れていた。

千駄ヶ谷の街に溶け込むビル

建物が建つのは、共同住宅や事務所ビルが混在している地域である。建物の素材として、コンクリートの打ち放しや木、石など、自然そのままのテクスチャーを生かすことを私は好んでいる。例えば街並みとしてレンガの建物が1km 続くのもよし、漆喰の建物が1km 続くのもよし、とする。

しかし、いくら好きなコンクリートでも打ち放しの壁が1km 続いたら、無機質な街並みにならざるを得ない。そのため、私の希望で、打ち放しのコンクリート造には、石や木を取り入れることを建て主に勧めている。

北側のアルミのルーバーは、向い側の共同住宅の南側に面しているため、互いのプライバシーとデザインを考慮して採用したものである。外壁はコンクリート打ち放し+自然石(割り肌)+アルミルーバーで構成している。

1階は打ち合わせに使う来客用のフロアで、外部からも中がよく見える開放的なスペースだ。ショーウィンドウのように、商品を見せるコーナーも設けている。2階に事務所、3階にフリースペースを置いている。内装は、コンクリート打ち放しの壁の部分とジョリパットの白い壁の部分、カバのフローリングや石貼りなど、用途によって少しずつ変化をつけている。

ところで、この建築を建て替えるにあたって解体した以前の建物は、宮脇檀氏の設計によるものであった。(デザイン事務所兼住宅: 築約40年)

古い建物ではあったが、コンクリートに一部レンガタイルを施した、味わいのあるビルであった。宮脇さんといえば、建築学会賞も受賞され、建築設計だけでなく、エッセイなどの執筆でもその名を知られた建築家の1人である。62歳という若さでガンで亡くなったが、私も宮脇氏に敬意を表し、ほどよい緊張感を持って設計させていただいたことを追記する。

(石川倬氏談)

所在地: 渋谷区

構造: RC造 地上3階

用途: ショールーム+事務所+フリースペース

設計: 石川倬/石川設計工房

自然素材の温かみのある空間

建て主でいらっしゃる(株)オーセンティックの川上吉彦社長にもお話を伺いました。「CUBE SUGAR」という女性向けブランドの洋服・雑貨で全国展開されています。

(URL: <http://www.cubesugar.com/html/company.html>)

—設計の上でのご要望などはありましたか。

「そうですね、私は山登りを趣味としているし、自然素材のものが好きなんです。温かみがあって、ほっとする。設計の石川先生にも、ガラスや鉄骨などの無機質な建物でなく、石や木を使った落ち着いた空間をお願いしました。自然のものは、やはり飽きが来ないでしょう。先生はこちらの意図をよく理解してくださって、いい建物ができたと満足しています。」

—1階のショールームは、品物をディスプレイしてとてもきれいな空間ですね。普通のお店かと思いました。

「事務所の打ち合わせルームに使います。カウンターを設けて、お客様への飲み物のサービスなどもスムーズに行えるようにしています。」

—3階の木の扉や内装材は古いものですか。

「以前の事務所で使っていたものですが、木は真っ白な壁よりも親しみやすいし、棚を設けることもできるようにしてあります。」

—周辺は、アパレル関係の店舗・事務所が多い地域ですが、工事についてはいかがでしたか。

「近隣へ対応もよく、ほんとうによくやっていただいたと感謝しています。コンクリートの打ち放し部分もとてもきれいです。地元の商店の集まりである『千駄ヶ谷3丁目商盛会』でも我々のような新しい事業主は歓迎されています。神宮前に比べ、千駄ヶ谷は静かな住宅街でもあり、一時コミュニティとしては大人しい時期がありましたから。町の活性化に繋がるような建物が増えることが望まれていますね。」

—古いお店が残っている一方で、昔に比べ、新しい建物や若い人が増えている印象を受けました。今日はどうもありがとうございました。

求められる独立したプロの立場

藤下高士



藤下高士 profile

1949年 岡山県生まれ
 1972年 日本大学理工学部建築学科卒業
 1972年 鈴木建築設計事務所入社
 1977年 藤下高士建築設計事務所設立

主な作品

IDEE ROOMS UEHARA ほか多数。

今月は、構造設計の藤下高士氏です。藤下氏には以前、ShinClub69で「構造計算書偽造問題」について、お話を伺いました。今回は、ご自身の設計者としての歩みについてもお話しいただきました。

—前回の取材でいろいろお話しいただきましたが、掲載スペースが限られて心残りでした。その後耐震偽装事件の再発を防止するために、建築基準法や建築士法などの法律改正も行われましたが(3月31日閣議決定、公布1年以内に施行)、どのようにご覧になっていますか。

藤下: 今回の改正で再発根絶とまでは行かないでしょうが、引き続き検討すべき問題としては、9月の国会で、「設備士、構造士の専門資格者の位置づけやピアチェック体制を第3セクターで作る」という話が出てくるでしょう。1年後、そういうものができてくれば、世の中ががらっと変わると思います。専門の「建築士」の資格には、我々構造技術者協会のいろんな提言が今まで反対されてきた経緯があります。

—おおまかに言うと、今回、新たに「適合性判定機関」が1年後を目途として立ち上がりますが、2人1組で建物のチェックをおこないます。対象建築物はRC造で高さ20m超の特定建築物となります。判定員は「みなし公務員」になりますが、判定員の責任については明確になっていない問題点が指摘されています。最終責任者は知事となります。そこでは「建築構造士」が判定員として期待されています。

—確認検査機関が民間だから問題だというだけではなかったようですね。「ピアチェック」とは、どういうことですか。

藤下: ある構造設計者の仕事を、検査機関を通じて別の構造設計者がチェックするというものです。欧米では昔から行われていて、フランスでは保険会社がピアチェックを行っています。要するにプロがプロの仕事の評価する、という現実的な話です。プログラムで計算するだけではなく、その設計意図を理解できる人間によるプロのチェックが必要だということです。98年に確認検査を民間に開放したときにも要望があったのですが、結局民間の検査機関の確認検査員の資格には「審査経験が2年以上」という条件がついたので、行政OBでなければできない仕組みだったのです。つまり行政のやり方そのものを民間検査機関に引き継いでいったということですね。

—法律は現状に適合させようとする、オブラートにくるんだように、当初の主旨がわからなくなってくる傾向があります。誰にでもできるような、どこにでも当てはまるようなことを規定すると、いらぬ規制ばかりが増える。法律で縛れば縛るほど、逃げ道を作る人は出てくるでしょう。それより、プロをプロとして評価する資格制度があれば、審査そのものも必要なくなるかもしれない。

—仕事をするには専門の資格が絶対必要になってくる、ということですか。

藤下: そうですよ。資格のない人はいずれ他人の資格を使うなど、地下にもぐって仕事をするようになる。設計図書にきちんとサインできない人に仕事をやらせていいのですか、ということになります。「最低一級を絶対取れない」という世の中になるんです。意匠でも構造でも設計は難しいから、一級を取っていない人には仕事は任せられない、ということになってきます。

—藤下さんご自身について伺いたいのですが、どちらのお生まれですか。

藤下: 岡山県です。中国山脈の山の中、横溝正史の『八つ墓村』の舞台になったような山深い里です。親父は林業、というか猟師、鉄砲打ち

です。平らなところがほとんどない土地でしょう。農業もままならないから長男以外はみな奉公に出る。分水嶺で鳥取、米子方面に出るんです。親父も鳥取に出ました。祖父の時代はまだ獲物がいたんですけど、親父の代にはいなくなりましたからね。ちなみに私も、東京に出てからクレ一射撃をやっていました。秋田というマタギの家系なんですかね(笑)。—すごい話ですね。

藤下: 親父が自由業なものだから、私もサラリーマンの世界がわからなかった。高校時代まで課長と部長のどっちが偉いか知らなかった(笑)。それが、お袋に「田舎にいても仕事はないし、お前は出来るから、世の中に挑戦してごらん」と勧められて、高校は郷里を出てお袋の実家のある静岡の工業高校に進みました。でも大学進学なんて考えず、就職しようと思っていたんですよ。ところがその工業高校で構造力学の授業を受けたら、これが面白かった。駅の近くの商店街でアーケードからとび出ている片持ち梁が、どうしてもっているのかわかって感心しました。世界がぱっと広がったんですね。

—建築家って意匠の人なんか自己主張が強いでしょう。でも私は最初から構造の世界で生きていこうと思っていたので、「表に出る必要はない、縁の下の力持ちでいい」と思っていました。今は建物の技術が進歩して、プロジェクトが成立するかどうか構造設計者も意見を求められるようになりましたが、いまだに派手なことは嫌いです。

—昭和47年に大学を出てからは自分の思うとおりに仕事をしてきました。同級生はゼネコンやら一流設計事務所に入った人も多いけど、私は構造設計事務所に入り、しかも修行は4年と決めていました。その後は自分で独立しようと考えていました。ところが4年目、オイルショックがやってきて、省エネとか構造不況とか物価上昇で、世の中が急に不景気になり、今独立しても食っていけないという状況になってしまったんです。それでもうちょっと事務所で頑張ろう、とさらに4年いました。お世話になった鈴木建築設計事務所は実務を迫すところですね、パイオニアにはならない。でも地に足のついた仕事をしてきたと思っています。

—そこまでご縁が、今の辰につながっているんですね。

藤下: 自分の思った通りの職業についている—それが私の誇りです。この職業になってよかったな、とつくづく思います。あと10年くらいは、一生懸命働きますが、今後それほど仕事量は増やせないとはいえず、将来は世の中の公益のために働こうという気になってきましたね。

—この年になると、いろいろな相談を受けます。同年代の友人には会社のトップのような人もいます。彼らは、やたらに周囲に相談できないことも多くなる。社会の表舞台では活躍できるのはあと2、3年です。失敗はしたくないでしょう。だからいろいろな人の知恵を借りようとするものです。

—そんなとき、私のように、どここの組織にも属さず、独立した立場を維持している人間は頼りにされるのです。構造設計者としての問題だけではありません。仕事そのものや家庭のことなどについても。そういう自由な立場の自分が、今とても心地よいですね。

—一本日は、どうもありがとうございました。



IDEE ROOMS UEHARA



六月十九日(月)
豊島区の現場。RC造、地上三階建ての個人住宅である。久しぶりに一人で現場を担当することになった。町田の住宅以来だろうか。最近は一現場終わると、次の現場が終盤戦で応援要請がかかるといった具合だったのだ。やはり、スタートから自分にまかせてもらえると気持ちも引き締まる。
設計は、細江英俊さんである。建物は、ジョリパットを採用し、ソーラーシステムも搭載する予定である。
今日は先週末から続いている、一階のスラブの配筋工事で、鉄筋工事と型枠工事を行う。

六月二十四日(土)
柱部分と外壁の型枠、建込工事に入る。
最近、現場事務所にもコピー、

六月二十三日(金)
一階の床が終了したので柱筋を圧接する作業に入る。ガス圧接工法で行っている。鉄筋と鉄筋を圧密着させ、アセチレンガスと酸素をつないだバーナーであり、継ぐ。当然雨だと中止だ。今日は天気予報がはずれ、ラッキーだった。



中村 勇行
お客様第一の心で
売上にも貢献したい

六月二十一日(水)
十七日に行く予定だった一階スラブのコンクリート打設が雨で延期、今日になった。梅雨時の工程はシビアである。無事終了。
六月二十二日(木)
墨出しを行う。一階の柱の位置、逃げ隅を決める。

プリンター、ファックス総合機を入れるようになった。四年前の現場事務所では、プリンターや電話など、まだ機械そのものはバラバラに入れていた。一部プロッターを入れていた現場もあったが、我々自身が図面を描くことはほとんどなかった。鉄骨図、金属工事、設備工事、電気設備工事、EV工事などほとんどの図面は専門業者が描いてくるが、最近自分もCADで駆体の実施図面は描くようになった。
モバイル環境も設計者側の要請で、必須になってきている。以前の町田のお客さんは、ご自分もCADを扱い、メールでの質疑応答を頻繁に行う方だったので、自分も随分鍛えられた。現場環境を整えようと思えばきりが無いが、予算というものもある。それにしても短い間に進歩したものだと思う。
自分は、なるべくお客様の希望通りに工事をやってあげたいと思う方である。設計の先生の意図もあり、出来上がってから何かと予算外の工事の変更や追加が出てくる。会社としてはつらいところである。何とか人情と売上を両立させていきたいと考える今日この頃である。

1960年生まれ 岩手県出身
岩手県立久慈高校卒業
趣味:ドライブ
担当した主な物件 (設計者)
H邸(辰一級建築士事務所)

TOPICS/INFORMATION

「(株)ZENホールディングスおよび(株)ユニホー代表取締役、田中好文氏就任」



さる6月29日辰の親会社である(株)ZENホールディングス、(株)ユニホー臨時株主総会を経て、7月1日をもって田中好文氏が同社代表取締役として就任しました。田中氏は、昭和44年から中央三井信託銀行に勤務、専務執行役員名古屋支店長、三井トラス・ホールディングス常務監査役を6月に辞任し、今日に至っております。
東証二部上場をめざし、オーナーカンパニーからパブリックカンパニーへの移行を行なうべく実践指揮を執ります。

「松涛T邸 新築工事 地鎮祭」 6月20日

17年前に旧辰建設で施工した住宅の庭先に新たに住宅を新築します。

構造:RC造 地下1階、地上2階
用途:専用住宅
設計:齋藤祐子
/ (有)一級建築士事務所サイト
完成予定:2007年3月



「(仮称)板橋共同住宅 新築工事 地鎮祭」 6月26日

設計者の自宅及び奥様のご両親を含めた親戚関係の4世帯住宅です。

構造:S造 地上4階
用途:共同住宅
設計:松尾建築設計事務所
完成予定:2007年1月



編集後記

「夏季一斉休暇のお知らせ」 8月12日(土)～16日(水)までを夏季休暇とさせていただきます。

